

プログラム及び参加者紹介

プログラム

オープニング・セッション

- 1000-1005 開会挨拶 新保 雅俊（防衛研究所長）
1005-1010 来賓挨拶
1010-1020 議長からの趣旨説明、発表者の紹介
庄司 潤一郎（防衛研究所戦史部上席研究官）

- 1020-1105 基調講演 入江 昭（ハーバード大学名誉教授）
「太平洋戦争に対する3つのアプローチ」

- 1105-1115 休 憩

第1セッション「米英同盟関係をめぐって」

- 1115-1145 発表 マーク・A・ストーリー（バーモント大学名誉教授）
『オレンジ計画』から真珠湾まで
ーアメリカの東アジア・太平洋大戦略の発展 1939～1941年ー」
1145-1215 発表 ダグラス・E・フォード（サルフォード大学教授）
「太平洋戦争前夜におけるイギリスの極東戦略 1941年」
1215-1245 コメント 進藤 裕之（防衛研究所戦史部主任研究官）
討 議

- 1245-1350 昼食休憩

第2セッション「日本の脅威への対応と同盟」

- 1350-1420 発表 スティーブン・C・ブラード
（オーストラリア戦争記念館主任歴史研究官）
「脅威、反応、緩和
ー太平洋戦争勃発にいたるオーストラリアの大戦略ー」
1420-1450 発表 ヘルマン・Th・ブッセマーカー（元アムステルダム大学研究員）
「カリジャティへの道
ーオランダ領東印度と日本の対立 1940～1941年ー」

1450-1520 コメント 立川 京一
(防衛研究所企画室共同研究調整官兼戦史部主任研究官)

討 議

1520-1530 休 憩

第3セッション「日中戦争から太平洋戦争へ」

1530-1600 発表 鹿 錫俊 (大東文化大学教授)

「中国国民政府の対日戦略」

1600-1630 発表 小谷 賢 (防衛研究所戦史部教官)

「日本陸海軍と南進—『自存』と『自衛』の戦略—」

1630-1700 コメント 岩谷 将 (防衛研究所戦史部教官)

討 議

1700-1715 休 憩

総合討議

1715-1815 総合討議・議長総括

閉 会

1815-1820 閉会挨拶 加賀谷 貞司 (防衛研究所戦史部長)

参加者紹介

議長

庄司 潤一郎

現職：防衛省防衛研究所戦史部上席研究官兼第1戦史研究室長

略歴：筑波大学卒業、同大学院修了（修士）。1986年防衛研究所助手、その後所員、主任研究官を経て、2008年から現職。2006年から「日中歴史共同研究」委員。

著書：『変動期の日本外交と軍事』（共著、原書房、1987年）、『大正期日本のアメリカ認識』（共著、慶應義塾大学出版会、2001年）、『日米戦略思想史—日米関係の新しい視点』（共著、彩流社、2005年）など。

基調講演者

入江 昭

現職：ハーバード大学名誉教授

略歴：ハーバード大学大学院修了（博士）。シカゴ大学教授、ハーバード大学歴史学部教授、同大学歴史学部長、アメリカ歴史学会会長など歴任。現在、立命館大学客員教授。

著書：『日本の外交』（中公新書、1966年）、『日米戦争』（中央公論社、1978年）、『20世紀の戦争と平和』（東京大学出版会、1986年）、『太平洋戦争の起源』（東京大学出版会、1991年）、『日米関係50年』（岩波書店、1991年）、『日中関係の百年』（岩波書店、1995年）、『歴史を学ぶということ』（講談社新書、2005年）など。

発表者（発表順）

マーク・A・ストーラー（Mark A. Stoler）

現職：バーモント大学名誉教授

略歴：ウィスコンシン大学大学院修了（博士）。米国陸軍士官学校、米国海軍大学、ハイファ大学（イスラエル）、米国陸軍大軍事史研究所において客員教授を歴任。アメリカ外交史学会会長も歴任。アメリカ軍事史学会理事。

著書：*Allies and Adversaries: the Joint Chiefs of Staff, the Grand Alliance, and U.S. Strategy in World War II* (2000); *Allies in War: Britain and America against the Axis Powers, 1940-1945* (2005); *The Politics of the Second Front:*

American Military Planning and Diplomacy in Coalition Warfare, 1941-1943 (1977); *George C. Marshall: Soldier-Statesman of the American Century* (1989) など。

ダグラス・E・フォード (Douglas E. Ford)

現職：英国サルフォード大学教授

略歴：ロンドン大学LSE大学院修了（博士）。ウェールズ大学アヴェリストウイス校講師を経て、2004年より現職。

著書：*Britain's Secret War against Japan, 1937-1945* (2006); "US Naval Intelligence and the Imperial Japanese Fleet during the Washington Treaty Era, c.1922-1936", in *Mariner's Mirror* (2008); "Strategic Culture, Intelligence Assessment and the Conduct of the Pacific War, 1941-1945: the British-Indian and Imperial Japanese armies in comparison", in *War in History* (2007); "British Intelligence on Japanese Army Morale during the Pacific War: logical analysis or racial stereotyping?", in *Journal of Military History* (2005) など。

スティーブン・C・ブラード (Steven C. Bullard)

現職：オーストラリア戦争記念館軍事史研究部主任歴史研究官

略歴：オーストラリア国立大学大学院修了（博士）。オーストラリア戦争記念館と在カンベラ日本大使館との共同事業の「オーストラリア・日本研究プロジェクト」の主任研究官を経て、同プロジェクト長を歴任。日本財団の支援を得て、戦争記念館による戦史叢書の翻訳も担当。

著書：*Blankets on the wire: the Cowra breakout and its aftermath* (2006); *Army operations in the South Pacific area: Papua campaigns, 1942-1943*, (2007) (戦史叢書の抜粋翻訳)；*Official History of Peacekeeping, Humanitarian, and Post-Cold War Operations* (執筆中) など。

ヘルマン・Th・ブッセマーカー (Herman Th. Bussemaker)

現職：歴史研究家

略歴：アムステルダム大学大学院修了（博士）。元アムステルダム大学研究員。

著書：*Bersiap: Opstand in het Paradijs* (Bersiap: Revolution in Paradise) (2005); "De geloofwaardigheid van de Indische Defensie, 1935 - 1941" (The plausibility of the Dutch Defence of the Netherlands-East Indies,

1935-1941), in *Militaire Spectator* (1985); "RAINBOW: Nederlands-Indië in de Amerikaanse oorlogsplannen" (RAINBOW: The Netherlands East Indies in American War Plans), in *Het Marineblad* (1995); "Paradise in Peril: The Netherlands, Great Britain and the Defence of the Netherlands East Indies, 1940-1941", in *Journal of South-East Asian Studies* (2000) など。

鹿 錫俊 (ろく しやくしゅん Lu Xijun)

現職：大東文化大学国際関係学部教授

略歴：中国復旦大学大学院歴史学研究科修士課程修了、中国復旦大学大学院歴史・国際政治学研究科博士課程修了(博士)。一橋大学大学院法学研究科博士課程修了(博士)。一橋大学法学部助手、日本学術振興会特別研究員、島根県立大学総合政策学部助教授を経て現職。

著書：『中国国民政府の対日政策 1931—1933』（東京大学出版会、2001年）、「世界化する戦争と中国の『国際的解決』戦略」（『膨張する帝国 拡散する帝国』（東京大学出版会、2007年）所収）など。

小谷 賢

現職：防衛省防衛研究所戦史部第1戦史研究室教官

略歴：立命館大学卒業、ロンドン大学大学院修了(修士)、京都大学大学院修了(博士)。2004年から現職。

著書：『イギリスの情報外交—インテリジェンスとは何か』（PHP研究所、2004年）、『日本軍のインテリジェンス』（講談社、2007年）、『インテリジェンスの20世紀』（共著、千倉書房、2007年）、*The Pacific War Companion* (共著、Osprey、2005年) など。

コメンテーター

進藤 裕之

現職：防衛省防衛研究所戦史部第1戦史研究室主任研究官

略歴：京都大学法学部卒業、神戸大学大学院修了(修士)。防衛研究所助手を経て、2006年から現職。

著書：Japanese air operations over New Guinea during the Second World War in *Journal of the Australian War Memorial*, June 2001; "Japanese operations against the Australian mainland in the Second World War: A survey of

Japanese historical sources,” for the Australia-Japan Research Project (2001) など。

立川 京一

現職：防衛省防衛研究所企画室共同研究調整官兼戦史部第1戦史研究室主任研究官

略歴：上智大学卒業、同大学院修了（博士）。防衛研究所助手、主任研究官を経て、2008年から現職。

著書：『第二次世界大戦とフランス領インドシナ』（彩流社、2000年）、『戦争の本質と軍事力の諸相』（共著、彩流社、2004年）、『エア・パワー』（共編著、芙蓉書房出版、2005年）、『シー・パワー』（共編著、芙蓉書房出版、2008年）、*British and Japanese Military Leadership in the Far Eastern War, 1941-1945*（共編著、Frank Cass、2004年）など。

岩谷 將

現職：防衛省防衛研究所戦史部第1戦史研究室教官

略歴：慶應義塾大学卒業、同大学院修了（博士）。2007年から現職。

著書：『藍衣社』・『CC団』・情報戦—日中戦争下の暗闘』『日中戦争再論』（錦正社、2008年）など。

太平洋戦争と連合国の対日戦略—開戦経緯を中心として—

平成 20 年度戦争史研究国際フォーラム報告書

発行日 平成 21 年 3 月 31 日

編集・発行 防衛省防衛研究所

〒153-8648

東京都目黒区中目黒 2-2-1

電話: 03-5721-7005

FAX: 03-3713-6149

E-mail: planning@nids.go.jp

ISBN 978-4-939034-52-7

©無断転載を禁ず